

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスであるということを考慮した理念があり、理解と共有ができるよう研修の際やミーティング等で管理者が具現化し実践できるよう工夫している。	「心から ありがとう あたたかいハートでいっぱい」に最高齢の入居者が書いたスローガンと額入りの経営理念7項目が事務所の壁に掲げられている。職員は朝礼時に唱和している。会議等で入居者に提供しているサービスを振り返り、理念が反映されているか確認し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの夏祭りやいろいろな行事に参加していただけるようお願いしている。地元の小学生との交流会やお茶にお誘いして気軽に遊びに来ていただいたり介護相談にのるなど地域の人達と交流の機会を持てるように取り組んでいる。	事業所の横が通学路となっており散歩の時や室内から住民や子供たちと親しげに挨拶を交わし交流している。毎週訪問のハーモニカのボランティア、毎月訪問の小学3年生と歌やおしゃべりを楽しみながら交流している。自宅で介護している介護者の訪問もあり、話を聞いたり助言している。その相談内容によっては行政や介護事業所など、関係機関に繋いでいる。夏祭りの開催ポスターを地域各所に貼ったり、回覧板を回すなど大勢の住民とのふれあいを願って取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、地域の人達になじんでいただけるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員の方や家族代表・地域代表の方に運営推進委員になっていただき入居者状況やホーム内での様子をお伝えしGHIについて理解していただくと共にご意見を頂き実際のサービスに反映させている。	昨年8月に開設し慌ただしい中で昨年度は1回、今年度は2ヶ月毎、開催している。会議では事業所の活動や利用状況等の報告、参加者との意見交換が行われている。会議を通してホームは地域に密着し、地域に根ざしたサービスの提供に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の担当者の方や地域包括支援センターの方から相談を受けたり、相談にのっていただいたりしています。必要に応じ出かけていくこともあります。	市の担当者や包括支援センターの職員とは何かあればいつでも気兼ねなく相談や連絡をとりあえる関係が築かれている。住民からの相談でホームが対応できないケースなどは市の担当者や地域包括支援センター職員、居宅介護支援事業所に繋いでいる。あんしん(介護)相談員の派遣を市に依頼し訪問を待っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄間の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はできる限りしない方向で対応しています。玄間はセンサーをつけることで人が玄間に来るとわかるようになっており、鍵はかけずに対応できる様に取り組んでいます。	職員は研修等を通じ身体的拘束の具体的な内容やその弊害を理解しており、施錠を含め、拘束をしないケアに取り組んでいる。外出傾向の入居者には行動を見守り、何をしたいのか、どこに行きたいのかなどを見極めながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	心身共に健康で虐待をしないとしない環境整備に心がけ研修を積み重ねていく中で自己啓発をし防止に努めています。		

グループホーム川中島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用しようと思った利用者様もいます。管理者・職員共に概要は理解しており、家族・関係者とも必要に応じて情報交換しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時共に契約書・重要事項を読み合わせをしながら説明し、不安なことや疑問がないか伺いながら承諾を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や来所時、意見、不満、苦情を聞く意見箱を設置するなどして聞く機会を設けており、また、外部機関にも窓口があることを玄関に掲示させていただいている。	家族会は契約時に説明し設立している。昨年食事会を兼ねた家族会を計画したがPR不足のためか、出席が得られなかった。家族同士の交流は大切なこと、必要なことと考えている。「外出の機会を増やして欲しい」、「食事のカロリーを明確に」等、諸々の意見要望に関しては検討し、改善に努めた。意見・要望など、何でも気軽に表してもらいホームの運営に役立てたいと考えている。	家族同士やホーム職員との交流の機会となる家族会を時機を見て開催されることを望みます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃より職員の意見を聞くように声掛けを行っている。また、カンファレンスや研修の際にも何でも話せる雰囲気作りを心がけている。	毎日の朝礼ではスローガンまたは経営理念の唱和と報告、意見交換を行っている。そこで話し合われた意見や提案は運営に反映させている。管理者や主任は会議以外でも個別に意見を聞いている。月2回の全体研修は夜勤以外の全職員が出席し業務内容などを相談したり検討している。月1回本部で行われる会議には管理者が出席しホームの報告を行い、結果等は朝礼で職員にフィードバックされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、事業所内で日頃の取り組みに対する自己評価を実施している。運営者は、それに目を通すと共に日頃の努力や実績を把握しており、実績を評価し、その上で、職員は向上心を持ち、仕事をすることができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や同法人内での交換研修が受けられるように検討中。外部での研修にも積極的に参加できるようスキルアップのための取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われるスタッフ研修や他施設との交流を図ることでネットワーク作りやサービスの質の向上に繋がるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の情報はご家族やケアマネから情報を頂いたり、アセスメントに目を通し本人の話を傾聴させていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接は、本人、家族はもとより、なるべく多くの関係者から情報を聞いた上でサービスの提供を決めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のG.Hや施設の特色を伝え、その利用者様に適していると思われるサービスや内容の説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常会話の中から、その人の歴史を知り共に支えあうことができるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に希望はどんなことでも、まず何う様にし介護に取り入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人、近所の方達、お店の方達との面会や外出の機会を設け社会との交流が途絶えてしまわないよう支援している。	自宅で暮していると同じように隣近所の顔見知りを訪ねてきたり、馴染みのお店に買い物に行く、そんなことが日常的に出来るようにと地域との交流に積極的に取り組んでいる。入居者の中には職員の支援を受けながらではあるが親しい人たちと手紙をやり取りし、電話で連絡しあう人もいる。馴染みの人の訪問を受けた入居者は嬉しくて職員に何度も話をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の人間関係を把握した上で話題を提供したり、テーブルでの席や入浴等の順番を工夫し、トラブルを未然に回避できるようにしている。利用者同士の助け合いや、気配りも危険のない範囲であれば見守るようにしている。		

グループホーム川中島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても電話にてご様子伺う。必要に応じて今までと同様ご家族様のご相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様のご意向に従い、サービスが提供できるよう心掛けている。時には家族も交えて話し合う機会を設けている。	職員は入居者一人ひとりの暮らし方や思い、意向などについて関心を持っており、つぶやきや何気ない会話からも気持ちの把握に努めている。意思表示が難しい方でも分かり易い言葉で話しかけ意思確認を試みたり、日頃の様子などを参考に本人本位に検討しているが、どうしても難しい場合には家族に相談している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や環境、以前からの習慣や嗜好趣味の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各種チェック表を利用し、心身の健康状態を把握し役割や一日の過ごし方の把握に努めている。把握した情報は職員全体に共有できるように記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの情報収集を行い評価を行う際に反映させている。職員間でもミニカンファレンスを行い意見を出し合っている。	本人、家族の意向を下にケアチェック表で心身状況を確認し、それらを反映した介護計画を作成している。体調の変化や意向が変われば直に見直し、現状に即したものに作り変えている。居室担当者がケアチェック表(包括的自立支援プログラム)を記入しており、支援に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録申し送り等は日勤帯が黒、夜間帯が赤としわかりやすく、必要な情報が共有できるよう工夫し実践や計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

グループホーム川中島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の小学生との交流や民生委員の訪問等により、いろんな方と触れあったり話を聞く機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の通院の支援を行っている。かかりつけ以外であっても家族と共に通院支援を行い適切な医療を受けられるよう支援している。	本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。受診や通院の付き添いは基本的に家族に依頼しているが職員が付き添うこともある。往診は行われていないが、看護師によるバイタルチェックや異常の早期発見が行われている。何かあればかかりつけ医や医療機関と連絡を取り合い必要な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師である為、必要に応じた受診や処置看護を提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供、また、入居者を交え見舞いに行った際や、付き添い家族等から医師や看護師との情報交換、また、受け入れ可能(医療的な処置が可能な状態)であれば早期に退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については家族、主治医の先生と何度も話し合いの場を持ち、家族の合意のもと往診に切り替え職員全員で情報を共有している。	重度化した場合における対応に係るホームの指針があり、契約時に本人、家族に説明している。本人の状況により家族、医師、職員等関係者が繰り返し話し合い、方針が決められている。また終末期に関してもホームの方針が定められている。終末期支援を3名の方に行ってきたが、本人家族が安心して納得した最期を迎えられるようにと心を尽くした支援を提供した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法は記録に残し実践の場面で迷わないようにしている。急変や事故発生についても手順を周知するよう研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年は地震が多く災害時の避難について話し合いをした。実際にどのように避難するかも話し合ったが地域との協力体制は、まだ、築けていない。	昨年は消防署の指導を受けながら職員中心の屋想定の訓練を行った。今年度は8月に入居者参加の避難訓練を予定している。スプリンクラー、非常通報装置、自動火災報知機、誘導灯、消火器などの防災設備が設置されており、IHクッキングヒーターを使用していることもあり火災に対しては万全な策が講じられている。	運営推進会議の委員の協力を得たり消防署とも相談しながら年2回入居者も参加する防災訓練を実施されることを望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、職員それぞれが普段からプライバシーを損ねるような声掛けや対応をしないよう心掛けているが、ミーティングの際等、職員同士、お互いのかかわりについて良い点・改善点について話し合い、マンネリ化や馴れ合いを防ぐようにすることを心掛けている。	入居者一人ひとりに対し年長者としての敬意を払い、日々、サービス提供に取り組んでいる。合同会議やミニカンファレンス、朝礼時などにケア内容を振り返り、対応や声かけが適切であったか、また入居者一人ひとりの人格を尊重していたか、誇りを損ねずプライバシーも確保していたかなど話し合いながら周知徹底に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者それぞれの理解力に応じ判りやすい言葉を選び、時には写真や広告等を見ていただいたりして理解しやすく、伝えやすくできるように働きかけている。言葉だけに頼らず表情や行動からも思いや希望を察知できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	G・Hでの生活パターンはあるが、無理強いすることなく、本人の希望や体調により配慮した生活を提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服が好きな利用者様とは洋服を一緒に決めたり、美容院に一緒に行くなど、おしゃれが楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から後片付けまでは役割のひとつとして、それぞれに合わせた支援を一緒に行っている。食事や飲み物の好みについても把握しおいしく食べていただけるよう心掛けている。	入居者は自分のできる範囲で食事の準備や後片付け等を職員と一緒にやっている。食堂には食器の音や料理のいい匂いが漂い会話の声も弾んでいた。食事介助が必要な方も職員も同じテーブルに着き、おしゃべりしたり、笑ったりと和やかな食事の様子であった。職員は時々席を立ち、入居者一人ひとりに声を掛けながら摂取状況の確認やお茶を勧めるなどテーブルを廻っていた。職員の話しかけに入居者は冗談を言い笑顔で答えていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量については、ケース記録に残し状態を把握、水分を多めに摂っていただくための工夫や声掛けを行っている。しつこくなりすぎないように注意しながらもバランスよく水分や栄養が摂れる様配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをして頂き十分に磨くことの出来ない方は介助させていただいている。義歯については、磨くほか週一度洗浄剤にて浸け置き洗いをしている。可能な方には、磨き方の指導を歯科衛生士さんをお願いし定期的に見て頂いたり職員からも声掛けさせていただいている。		

グループホーム川中島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員が排泄パターンを把握し、それに応じてトイレ誘導や介助を行っている。オムツのあて方や使用方法について講習を受けできるだけ不快の無いよう配慮し、また、失禁にならないよう支援している。	職員は一人ひとりの排泄リズムを把握しておりさりげなく近寄り、声を掛け、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。入居者が快適に過ごせるよう介護用品を工夫したり一人ひとりのケアについても話し合い最良の方法を模索している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用いて、個人の排泄パターンを把握、水分補給や食事内容にも配慮し気持ちよく過ごせる様取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	清潔が保てれば回数にこだわらず、ゆっくり入浴して頂ける様日程や順番、入浴時間や介助方法を決めている。 声掛け誘導はさせて頂いているが無理強いはない。	午後2時ごろからが入浴の時間となっているが職員は一人ひとりに声を掛けながら希望やタイミングに合わせて支援している。朝風呂(6時)に入りたいとの希望にも対応している。1日3名が自分のペースで入浴し、個人差はあるが週2~4回入浴している。菖蒲湯、柚子湯等の入浴も楽しんでいる。浴槽は障害が左右どちらであっても対応できる可動式の浴槽が設置されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方で夜間安心して気持ちよく眠れるか。左右されやすい心身の状況に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に薬局から頂いている薬の説明書をファイルしてある。服薬の変更や主治医からの指示は記録に残すと共に申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意な事、苦手な事的情報を元に居心地のいい環境作りを支援している。役割を持っていただく事で達成感や満足感が得られるよう声掛けしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	美容院や理髪店など気分転換と運動も兼ねて、車椅子や徒歩にて出かけて頂いている。天気の良い日はホーム内外の散歩に出かけ、中庭に植えた野菜の収穫や花がら摘み、草取りも自由に行っている。	日常的にはホームの庭や住宅地内の散歩を楽しんでいる。行楽シーズンにはお花見や紅葉狩りなどドライブを兼ねて遠出したり、近くの神社へ参拝したりと名所旧跡や公園等に積極的に出かけている。川中島古戦場に出かけた時は自分の好きな物を注文して食べたり、散歩したりと楽しい時間を過ごせた。	

グループホーム川中島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を所持していた方で、管理能力のある方については御家族と相談の上所持していただいている。お金を持っていることで落ち着かなくなってしまう方もいらっしゃるので個々に対応させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があった場合は電話をして頂いたり、手紙を書いた方にはご家族に届けたり、又、届いた手紙はご本人に渡したりし、親しい方との交友関係を保てるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレに行きたいタイミングが重なってしまったり、いつも使っているトイレが空いてなかったりという事はあるものの、職員の声掛けと誘導、ご利用者様同士での譲り合いで過ぎて頂いています。室内は明るく中庭の花が良く見渡せるようになっており、植えられた花や野菜、植木で季節感を感じて頂いています。	食堂には大きなテレビがあり、テーブルが2台と椅子、一段上がったところには和室スペースがあり長方形の座卓が置かれている。入居者は思い思いの場所でお茶を飲んだり歌を歌ったりおしゃべりをしている。壁には外出先のスナップ写真や絵画、季節の花も飾られ、時季に合わせた演出がされている。2棟の中央には中庭があり一部が畑でそれ以外は広いベランダとなっておりユニット間の交流の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と和室交流スペース等、好きな場所で好きに過ごして頂けるよう共有スペースが随所にあり、ゆったり過ごして頂けるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時使い慣れた家具の持ち込みを勧めており、布団や枕についても新しいものではなく、今まで使っていたものを持ってきて頂くようお願いしています。写真やお仏壇などご本人が大切にされてるもの、自分の部屋だとくつろいで頂ける空間になるよう工夫しています。	7.5畳と広めの居室には洗面台、クローゼットがあり冷暖房が完備されている。居室の入口には表札はなく絵画が掲げられており入居者はそこに描かれている絵を見て自室を確認している。文字を書くことが趣味の入居者の居室にはベッドの横に何時でも書くことが出来るようにと紙と筆が行かされている。どの居室も馴染みの物やお気に入りの物があり居心地良く過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、玄関、廊下には手擦りが付いており、それぞれの身体能力に合わせ利用して頂いています。廊下の手擦りは時にはリハビリとしても使っています。ベッドの向きや家具についても、ご本人、御家族とよく話し合った上で設置させて頂き使いやすい環境作りに配慮しています。		